

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人ゆずりは会あらたま		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 15日		2026年 2月 6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17名 16世帯	(回答者数) 14世帯
○従業者評価実施期間	2026年 1月 15日		2026年 2月 24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 9日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	遊びを通じた活動を通じて、利用者自身が選択する経験や、複数人で楽しむ経験を学ぶ機会を提供できる点が事業所の強みです。	選択肢の視覚化や施設内の構造化(ラベリング等)を行い、利用者が見通しを持って行動できる環境づくりに取り組んでいます。また、利用者同士で意見交換や話し合いを行う時間を設けています。	自分の要求が通らない場面や勝負に負けた場面で気持ちを整理し、納得して行動する力の育成を課題と捉え、支援内容の工夫に取り組んでいます。
2	就労に向けたアセスメントを行い、利用者の特性に応じた訓練につなげています。	アセスメントツール(TTAP、ワークサンプル幕張版)を活用して利用者の特性や課題を把握し、それに基づいた支援を行っています。また、課題はスモールステップで設定し、問題量を本人に合わせて調整するなどの工夫を行っています。	少し苦手なことにも段階的に取り組む経験を通して、適度な負荷に耐える力を身につけられるよう支援の充実を図っています。
3	利用者の障害特性への理解を深めるため、日頃から研修等に参加し、職員の専門性や支援スキルの向上に努めています。	令和7年度は、群馬大学小児科、支援教育センター、高崎市虐待防止研修、未来を拓く実行委員会主催の研修に参加し、職員の専門性向上と支援力の強化に努めました。	研修に参加した職員は、研修内容を紙面で提出するだけでなく、時間を設けて他の職員へ共有する機会を設け、事業所全体で知識や支援方法を共有できるよう取り組んでいます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員配置の都合により、土曜日や祝日の開所が難しい状況があります。そのため、利用者・ご家族と相談しながら、必要に応じて他の放課後等デイサービスとの併用をお願いしています。	職員配置や事業所体制の状況により、開所日の拡大が難しいことが要因となっています。	利用者・ご家族のニーズを確認しながら、他事業所との併用や関係機関との連携により支援体制を整えています。
2	個室での活動を希望する利用者が増えているが、施設の構造上個室を増設することが難しく、十分に対応できていません。	施設の構造やスペースの制約により、新たに個室を設けることが難しいことが要因と考えられます。また、個別で落ち着いて活動できる環境を必要とする利用者が増えていることも背景にあります。	パーティションやポップアップテント等を活用して個別スペースを確保するなど、できる範囲で環境調整を行っています。今後も利用者の特性や活動内容に応じて空間の使い方を工夫し、落ち着いて活動できる環境づくりに取り組んでいきます。
3			